

**平成27年度
日本看護系学会協議会 講演会**

**看護学における大型研究費獲得
への取組みと支援**



平成 27年 6月 30日
森 恵美
千葉大学大学院看護学研究科
<http://www.n.chiba-u.jp/mamatasu/index.html>

千葉大学大学院
看護学研究科 森 恵美

講演の内容

- 大型研究費との出会い
- 大型研究費獲得までの道のり
- 大型研究費獲得のために(研究者自身)
- 大型研究費獲得に向けて学会への要望
- 大型研究マネジメントにおける困難
- 大型研究費獲得後の研究推進と受けた支援
- 看護学、社会への貢献
- 大型研究費獲得後の波及効果と支援

Emi Mori 2

大型研究費との出会い

1. 平成15～19年度千葉大学21世紀COEプログラム「日本文化型看護学の創出と国際発信拠点－実践知に基づく看護学の確立と展開」COE推進担当事業リーダー：石垣和子、COE推進担当者：森恵美他
2. 平成16～19年度文部科学省科学研究費補助金基盤研究(B) 研究代表者：森恵美
3. 平成20～23年度文部科学省科学研究費補助金基盤研究(B) 研究代表者：森恵美
4. **最先端・次世代研究開発支援プログラムの募集、応募(2010(H22).5.20)**

Emi Mori 3

大型研究費獲得までの道のり

1. 最先端・次世代研究開発支援(NEXT)プログラムの募集、応募(2010.5.20)
2. 最先端・次世代研究開発支援プログラム **ヒアリング通知**(2010.7.6)
3. 最先端・次世代研究開発支援プログラム **ヒアリング**(2010.9.9)
4. 最先端・次世代研究開発支援プログラム **採択通知を受領**(2011.2.14)

Emi Mori 4

大型研究費獲得までの道のり

1. 最先端・次世代研究開発支援プログラムの募集、応募 2010(H22).5.20

政権交代を契機として、平成21年度第1次補正予算における最先端研究開発支援プログラムの全体を見直し、1,000億円を平成21年9月4日に決定した30の研究課題(最先端研究開発支援プログラム)に配分するとともに、**500億円を若手研究者のための新たな支援策に充てる**の方針(「**最先端・次世代研究開発支援プログラム運用基本方針(第88回総合科学技術会議平成22年2月3日)**」)が総合科学技術会議において決定

Emi Mori 5

大型研究費獲得までの道のり

1. 最先端・次世代研究開発支援プログラムの募集、応募(2010.5.20)

情報提供：千葉大学研究担当理事から

- 若手、女性を対象にしている、条件に合致
- 研究シーズが既にあり、研究動機は高い
- 社会的要請、喫緊な課題である
- 研究組織の基盤はある
- 研究代表者(PI)としての推進力、エフォート

Emi Mori 6

大型研究費獲得までの道のり

2. 最先端・次世代研究開発支援プログラム
ヒアリング通知(2010.7.6)
 - ヒアリングPPT作成: 審査基準に沿って
 - 学内の予行: 男性研究者を多く配置
 - 学長、理事の前での予行: 質疑応答も含み1時間くらい
 - 日本看護学会系協議会・日本看護科学学会
: 大型研究費獲得についての講演 : 8月
(東北大学大学院 吉沢豊予子先生)

平成22年夏

日本看護学会系協議会・日本看護科学学会主催

大型研究費獲得についての講演

東北大学大学院 吉沢豊予子先生

(元日本学術振興会学術システム研究センター研究員)

1. 基盤研究(B), (A)への応募の勧め
2. 閉鎖型から開放型へ
3. Translational Research の勧め
4. 蓄積と継続
5. 看護学系審査委員の増員

大型研究費獲得までの道のり

3. 最先端・次世代研究開発支援プログラム
ヒアリング(2010.9.9)
 - ライフ・イノベーション生物系; 10分発表、10分質疑応答
 - 審査基準
 - 1) 研究者の研究遂行能力・将来性
 - 2) 研究課題の視点・アイデアの斬新性、独創性
 - 3) 研究目的・計画の実現可能性・妥当性
 - 4) 研究成果の波及効果(世界への貢献度、イノベーションへの発展性)
 - 5) その他の評価項目①地域性の有無②経費の妥当性、③人権の保護、生命倫理及び法令等の遵守を必要とする研究課題の適切性

大型研究費獲得までの道のり

3. 最先端・次世代研究開発支援プログラム
ヒアリング(2010.9.9)
 - 研究の背景と動機
 - 研究目的と概要
 - 研究成果の波及効果
 1. ガイドライン研究の発展、2. WLB支援推進
 3. 次世代研究者の育成
- 若手研究者の研究能力育成と研究推進**
- ▶ 大型研究過程を体験、役割モデル提示
 - ▶ 看護学のライフイノベーション大型研究を推進

大型研究費獲得までの道のり

4. 最先端・次世代研究開発支援プログラム
内定通知(2011.2.10) 受領(2011.2.14)
 - 海外出張中に内定通知
 - 最先端・次世代研究開発支援プログラムにおける研究遂行上の留意点等について(説明会: 2月下旬)
 - 先端研究助成基金助成金(最先端・次世代研究開発支援プログラム)における交付条件

大型研究費獲得までの道のり

5. 先端研究助成基金助成金(最先端・次世代研究開発支援プログラム)交付決定通知書(2011.3.10付)
 1. 課題番号 LS022
 2. 研究課題名
日本の高年初産婦に特化した子育て支援ガイドラインの開発
 3. 交付決定額
104,000,000 円(うち直接経費 80,000,000 円、
間接経費 24,000,000 円)
 4. 補助事業期間
平成23年2月10日～平成26年3月31日

大型研究費獲得のために（研究者自身）

- 大規模研究シーズの明確化
- 学術的・社会的意義
- 研究者のモチベーション、熱意
- 研究者の研究力、PIとしての能力
- 研究チームの凝集性
- 費用対効果
- 看護学、社会への貢献、波及効果

大型研究費獲得に向けて学会への要望

- 看護系大型研究費獲得のための資料作成とロビー活動
- 例1) 文部科学省科学研究費補助金制度の看護学学科・細目における申請と採択状況 報告書: 日本看護系学会協議会・21年度日本学術振興会担当理事 島内 節、片田範子
- 例2) 男女共同参画学協会連絡会(54学協会)の活動
- 文部科学省、日本学術振興会、日本学術会議等からの情報収集、日本学術会議の報告書
- 学際的な大型競争的資金の審査委員に看護学研究者の増員要請や推薦

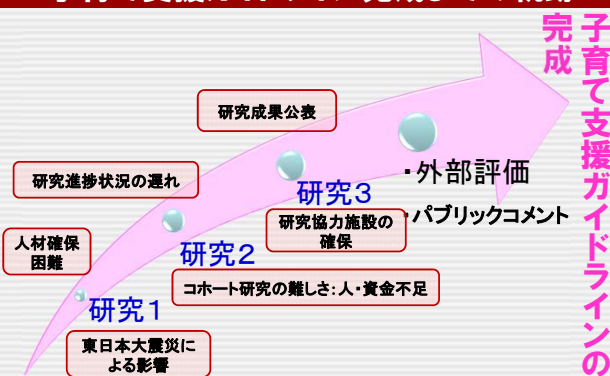
【NEXT研究プロジェクトの概要】平成22~25年度まで

- 研究1
 - 産後4カ月間における産後の生活活動と身体的心理社会的健康状態に関する縦断研究: 35歳以上初産婦の生活と健康を追跡調査
- 研究2
 - 産後半年間にわたる産婦の身体的心理社会的健康状態に関するコホート調査研究: 関東・関西の分娩施設の協力を得て、年齢・経産回数に関わらず追跡調査
- 研究3
 - システマティックレビュー: クリニカルエッセイを5つ設定し、高年初産婦のケアニーズ5つに対応したエビデンスの系統的検索・収集・分析・統合

1. 高年初産婦の産後1か月間の子育て支援ニーズの明確化
2. 子育て支援ニーズに対応した産後看護介入の提示と外部評価

高年初産婦に特化した子育て支援ガイドラインを開発

子育て支援ガイドライン完成までの軌跡



大型研究マネジメントにおける困難

- ① 東日本大震災による影響
- ② 人材確保困難
- ③ 研究進捗状況の遅れ
- ④ 研究協力施設
- ⑤ コホート研究
- ⑥ 資金、エフォート、人材
- ⑦ 膨大なデータの保守管理
- ⑧ 研究成果のできるだけ早い公表

研究費獲得後の研究推進と受けた支援

- 千葉大学から
- 千葉大学看護学研究科から
- 看護学研究者から
- 看護実践者から
- 看護系学会から
- 周産期医師から
- 研究協力者、図書館司書から
- 外部評価委員、一般人から
- 研究参加者から

看護学、社会への貢献

- 高年初産婦に特化した産後1か月までの子育て支援ガイドライン. 全267頁, 2014.
http://www.mamatasu.jp/doc/guidelines_fix.pdf
- 研究期間中(2011.2~2014.3)の講演
学術集会における指定講演: 2回
国民との科学・技術対話の実施: 4回
掲載論文(査読有): 7編
- 研究期間終了後(2014.4~2015.6.)の講演
学術集会における指定講演: 4回
保健師・助産師・看護師に向けての招聘講演: 5回
掲載論文(査読有): 11編

大型研究費獲得後の波及効果

- 次の課題について科研費基盤研究(A)の獲得
- 若手研究者の成長
- 千葉大学の中での看護学研究科の位置づけ
- 千葉大学看護学研究科の文部科学省科研費基盤研究(A)採択率上昇
- 開発したガイドライン→取材・講演依頼
- 大学院希望者の増加

看護学大型研究費獲得後の支援

- 研究グループの構築: 人的資源、資金の支援
- 研究成果の発信への支援
- 社会への説明責任と貢献: 国民との科学・技術対話への支援
- 看護実践への貢献機会の提供
- 看護界への貢献機会の提供

ご静聴どうもありがとうございました



mama+ 産後期・次世代研究開発支援プログラム
子育て支援ガイドライン開発研究プロジェクト

「ゆるり」ないう!!

子育てママをサポートをプラス。

はじめての子育てだからこそ、不安や戸惑いを感じるママはたくさんいらっしゃるかと思います。そんな方にお伝えしたいのが「Good Enough Mother」という言葉。ご存知ですか？米国では「ほどよい母親」を理想として、がんばりすぎない子育てを推奨する考え方が浸透しています。このプロジェクトはたくさんの子育てママのご意見や思いをアンケート調査し、その内容を反映させながら看護職の立場からのサポート体制に一つの課題をつけることを目指しています。

<http://www.n.chiba-u.jp/mamatasu/index.html>